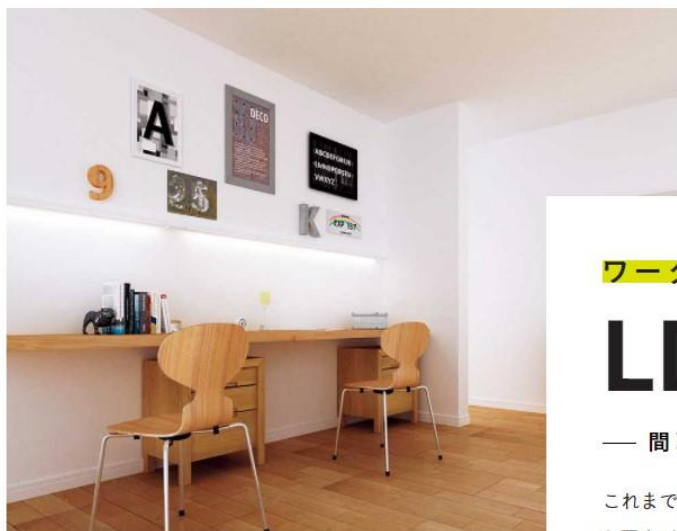


アフターコロナの暮らし方改革 テレワークに対応した新住宅構想「LWDK」を提案

オープンハウスグループで住宅設計・建築事業を展開する株式会社オープンハウス・アーキテクト（東京都立川市、代表取締役社長：日高 靖仁、以下「オープンハウス・アーキテクト」）は、リモートワークや SOHO の普及に対応すべく、戦後 75 年間続いた建築概念を変える、新しい住居構想「LWDK」を提案します。



ワークスペースが住宅の新基本

LDK ▶ LWDK

— 間取りのニューノーマル

これまでの日本の家づくりでは、「LDK（リビング・ダイニング・キッチン）」の3要素が基本形とされていました。リモートワークやSOHO（住宅兼事務所）の普及に対応すべく、オープンハウス・アーキテクトは戦後75年間続いたこの建築概念を変える、新しい住居構想を提案します。

・テレワークに対する課題

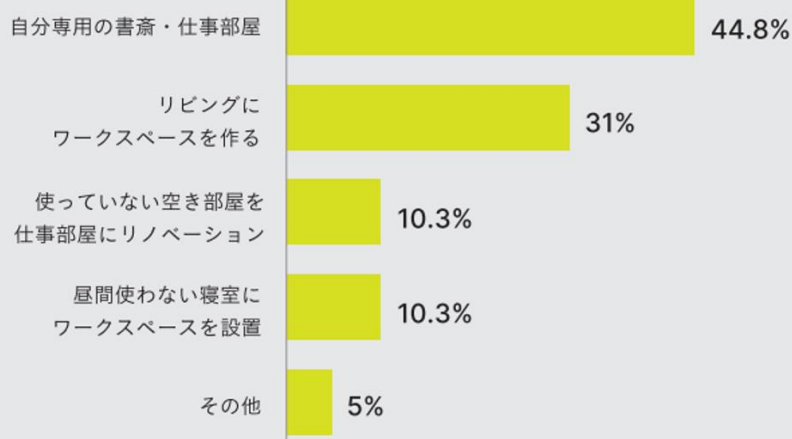
コロナ影響によってテレワークが一気に普及しました。一方で、急激な環境の変化に戸惑いの声が多いのも実情です。住まいの情報サイト「SUUMO JOURNAL」でのテレワークに関するアンケートでは、仕事環境において「オンオフの切り替えがしづらい」「仕事用スペースがない」などの不満の声があることが発表されました。

また、既婚で6歳以下の子どもと同居する約半数は「子どもをみつつ仕事可能な環境(部屋・スペース)がない」という悩みを抱えているとされています。これらから、テレワーク環境の悩みは、暮らしや家族構成によって様々であるといえます。

・理想のワークスペース

求められる理想のワークスペースの形も人それぞれです。当社のお客様を対象とした意識調査で、約4割が書斎などのプライベートワーク空間を求め、約3割がリビングにワークスペースを用意したいことがわかりました。

理想のワークスペースは？



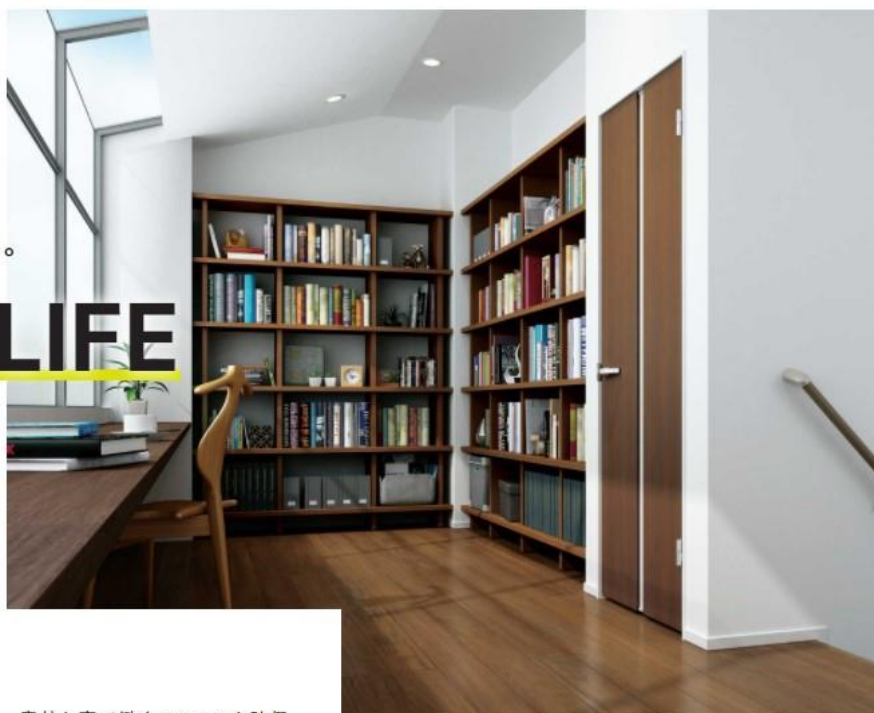
※ 注文住宅を建てたお客様を対象としたアンケート調査（当社、2020年7月23日調べ）

・ワークスペースが住宅の新基本に

ニューノーマルを迎えたいま、ビフォーコロナの常識とは違った働き方が求められるようになり、「衣食住」を基本とする生活スペースだけでなく、「働（く）」の機能も必要となりました。そこで、オープンハウス・アーキテクトは戦後 75 年間も続いた「LDK」の建築概念を変える、新しい住居構想「LWDK」を提案します。

家族時間とシゴトの時間。
両方、大切にできる家に住みたい。

WORK × LIFE



テレワークと働き方改革の時代。

家族と過ごす時間が増えて嬉しい一方、意外と家で働くスペースを確保するのが難しいと感じている方は多いのではないのでしょうか。

家事の合間のちょっとした在宅作業から、ウェブ会議や集中業務まで、あなたのワークライフにマッチしたシゴト空間を、オープンハウス・アーキテクトがご用意します。

■タイプ1 オープン

ダイニングの一角にカウンターデスクを設置。振り向けば、リビング・ダイニング・キッチンそれぞれの様子を簡単に確認できるので、家事・子どもの見守り・ニュースの確認などの「ながらシゴト」がしやすいです。

参考プラン (LWDK)

ダイニングの一角にカウンターデスクを設置。振り向けば、リビング・ダイニング・キッチンそれぞれの様子を簡単に確認できるので、家事、子供の見守り、ニュースの確認などの「ながらシゴト」がしやすいです。



オープン

キッチンやリビングなどの広い空間に作業スペースを設置するスタイル。家族とコミュニケーションを取りながら仕事ができるので、小さい子供の見守りにも便利。昼間はワークスペース、夕方は子供のリビング学習机として活躍。

■タイプ2 セミオープン

ビルトイン収納を仕切りに、リビングに隣接した半個室を実現。窓に面するカウンターデスクで、仕切っても空間が広々と感じられます。

セミオープン

完全な別室を設けずに、ゆるやかに家具や収納などで空間を仕切るスタイル。コミュニケーションの取りやすい環境を確保しつつ、テレビやお料理などで気が紛らわずに済む。週末には読書やクラフトなど、趣味部屋としても使える。



参考プラン (LWDK)

ビルトイン収納を仕切りに、リビングに隣接した半個室を実現。窓に面するカウンターデスクで、仕切っても空間が広々と感じる。



■タイプ3 プライベート

リビングから入れる、壁で仕切られている書斎。廊下に開く室内窓で開けたい時は開けて、集中したい時は閉めることができるので、使い方を作業内容や気分に合わせてられます。

参考プラン (LDK + W)

リビングから入れる、壁で仕切られている書斎。廊下を開く室内窓で開けたい時は開けて、集中したい時は閉めることができるので、使い方を作業内容や気分に合わせてくれる。



プライベート

完全個室タイプ。集中したい時は、扉を閉めて作業モードに切り替えられる。オンライン会議など、周りの音が気になってしまうようなシゴトの多い方におすすめ。

・テレワークのお悩みを解決するコンセプト商材ラインナップ

ワークスペースのよくあるお悩みに合わせたコンセプト商材をご用意しています。

ケース1 間取りのお悩み

どんな空間の一角でもワークスペースに変身させるカウンターデスクや、収納スペースを活用したパントリーデスク、専用部屋を充実させるシステムデスクなど。「LWDK」の「W（ワークスペース）」を設けたい方に、住居の広狭を問わないあらゆる作り付けデスクのアイデアを提案しています。



カウンターデスク

シンプルなカウンターデスク。どんな空間にでも合うスッキリしたデザインがアクセントになりつつ、ワークスペースとして機能。



パントリーデスク

ウォークインパントリーや納戸を仕事部屋として併用。居間の面積を減らさずに、収納スペースを活用して個室を実現。



書斎セット

省スペースでも独立したワーク空間を可能にするセット。収納力もあり、仕事道具や資料をすぐその場で取り出して使える。

ケース2 音のお悩み

集中力を高めるためのゆるやかな仕切りはもちろん、採光を妥協しない個室用窓やラインフレームドアで、テレビ会議などの生活音問題へも対応する商材ラインナップをご用意しています。



PARTITION

ラインフレーム間仕切り戸

完全個室でも、ガラスの扉を使うと隣接する居間から採光ができて、開放感のあるワークスペースを実現できるのがポイント。



PARTITION

室内窓

個室でも家族の気配を感じながら仕事ができる。固定窓はもちろん、個室の換気にも活躍する突き出し窓タイプもご用意。



PARTITION

間仕切り棚

セミオープン型ワークスペースのための間仕切りとして機能しつつ、道具や資料の収納・おしゃれなディスプレイとしても使える。

ケース3 電気のお悩み

仕事のオンオフに役立つ調光シーリングライトや、机を照らしてくれるライン照明で、作業効率に影響する灯り問題も解決。また、機材にあわせたマルチコンセントで、延長コードが不要なスッキリしたワークスペースを実現できます。



ELECTRIC

エコナビ調光シーリングライト

仕事のオンオフの切り替えを応援する照明。ワークタイムは昼光色で集中アップ、アフタースは電球色でゆっくりくつろぎ。



ELECTRIC

スリムライン LED

カウンターデスクにぴったりな一直線デザインの照明。スタイリッシュでありながら読書や細かいお手元作業を見やすくしてくれる。



ELECTRIC

マルチコンセント

モニターやプリンターなどにも対応できる多口数コンセントや、スマホ充電に便利なUSB差込口、自分のニーズにカスタマイズ可能。

ケース4 背景のお悩み

話題のテレビ会議の「背景問題」への対応として、デザイン性と機能性を持ち合わせた調湿壁材や壁付け棚など、個性豊かなアクセントクロスを取り揃えています。



WALL

エコカラット

空気もテレビ会議の背景も、スッキリ。調湿・脱臭機能があるので、湿度やにおいを気にせずに仕事に集中できる。



WALL

アクセントクロス

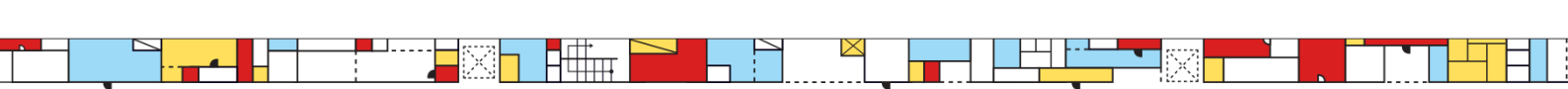
壁紙のワンポイントおしゃれ。心を静かにして集中力を高めるブルーやネイビーで、こだわりのシゴトスペースを実現できる。



WALL

壁付け棚

サイズ・形・素材を空間に合わせてカスタマイズできるので、どんなワークスペースにもスタイリッシュな収納として活躍。



オープンハウス・アーキテクトでは、今後もお客様のニーズに合わせた家づくりを提案してまいります。

・お問い合わせ

・特設ページ：<https://oha.openhouse-group.com/lp/telework/>

・取材などプレスのご相談：oha-pr@openhouse-group.com

今後もオープンハウスグループでは、本プランをはじめとした快適な住まいをお客様へ提供してまいります。

